

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

別添資料10

公表:平成31年 3月 1日

事業所名 にじ鷗野

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	3	備品などの移動によるスペースの確保しています	プログラムごとによって広く遊べるよう、スペースを確保する時間を設定します
	2 職員の配置数は適切である			事業所間でフォローを行っています。	スタッフの欠席などについては、今後も事業所間で連絡をとり、フォローできるようにします。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	1	椅子の背もとと座面との隙間をなくし安定しやすい構造にしました。また足置きなど作成しました。	メインフロアに敷いているクッションパネルの端と床の段差が2cmある為、傾斜になるように調整します。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	2	1	カンファレンス(会議)については、月2回程度行っています。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	2	1	前年のアンケート調査での意向を把握し、反映しています。	今年度アンケートについては把握、改善をこれから行います。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している		3	前年度は書類として配布しました。	会社のホームページにより公表します。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている				第三者委員は不在である為、選定を行うことが今後の課題です。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		2018年4月から2018年12月の間で外部研修を30回以上受講しています。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	1			標準化されたアセスメントツールの選定を行うことが今後の課題です。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	1	課題分析、行動把握としてABAのABC分析は使用しています。	標準化されたアセスメントツールの選定を行うことが今後の課題です。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	1	1	プログラム担当が立案しています。	外部研修を生かし、学んだことを実践していきます。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3	2	曜日によって固定化しないように調整しています。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	3	日々の課題等を設定して支援しています。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	1	1		個別活動として課題と、集団活動と課題を明確にし作成致します。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		児童の受入前にミーティングを行い、その日の目標を確認しています。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		支援終了後にミーティングを行い、その日の目標への取り組み経過、また共有事項を確認しています。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		保管している連絡帳の記載事項、ミーティング内容の記録によって支援の方向性を考えています。	ミーティングの記録者によって記載内容の誤差がみられる為、適正な記録になるよう細かな記載を行います。
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している		1	ミーティング業務の中で行っています。	ケース会議等で計画の進捗を明確にしています。
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	2		障がい特性の理解とその支援方法については、研修を受講しており状況を判断しながら実践しております。また、学校への聞き取り、連携を行うことで支援内容を変更することもあります。	ガイドラインの理解を深めるとともに、プログラムや様々な活動と関連付けていきます。	

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4		児童の担当者、または児童発達管理責任者が参画しています。		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	1	1	保護者を通して学校行事の確認を行っています。また学校の連絡帳の閲覧許可をいただき学校での様子の把握に努めています。連絡調整については、送迎時の交通状況によって予定時刻を異なる送迎になる場合は学校に連絡をいれています。	学校からの引継ぎ内容が無い場合、トラブル、体調の変化が起きた際には、学校への問い合わせを行っています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている					看護師が週1回程度の勤務である為、現在は受入が難しい状態です。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	3	以前利用していた児童発達支援事業所については、聞き取りなどを行っています。	引継ぎについては、幼稚園、保育所へは行っていないのが現状です。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	1	行っています。また、生活介護等の情報提供も一部行っています。	2019年2月時点で1名の方が移行されており、支援内容などの情報は提供しました。2019年度になるにあたって、移行される方はいらっしゃいませんが、従業員が見学した生活介護事業所などの情報を提供しています。	
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	1	LDセンター、エルム大阪などの研修にも参加しています。		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	5		今後活動の機会を設けていきます。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	1	自立支援協議会に登録しております。	2019年2月時点では、積極的に参加できておりません。参加できる機会を設けます。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		送迎時や必要であれば電話にてお伝えしています。	事業所間相談、家庭連携などの機会を増やします。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		2	行っておりません。	外部講師を依頼する、また状況提供の機会を設けるなど行っています。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4				
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3			適切な支援と助言ができるよう、今後も利用児童に寄り添い、必うような関わりを行います。その中で保護者様との共通の話題を持ち、対話していきます。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	1	保護者会を実施しました。また、外部の親の会講師を招き、必要な助言などを行いました。		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4		スタッフ間での情報共有に努めています。	ミーティングでの情報共有に努めていますが、情報がいきわたっていないことも見られます。児童にかかわる重要なことですので、受入前のミーティングと支援後のミーティングで繰り返し周知します。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		随時ブログ更新し、月報を月一回発行しています。		
	35	個人情報に十分注意している	6				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		障がい特性に合わせ、様々なものや機会を利用し、コミュニケーションを行うようにしています。		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わられた事業運営を図っている	2	3	2018年8月に夏まつりを実施しました。	大々的に周知活動などを行っていった為、事業所前を通りかかった地域の方のみの参加でした。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	2	マニュアル一式を整備し、保管しています。	マニュアルの読み込みや、突発時への対応訓練などを実施する機会を設けます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	2	年2回の避難訓練を行っています。2019年2月時点では1回のみ。	2018年度は11月に地震時の避難。2019年3月に火災の避難訓練を行います。今後救急救命訓練も年に1度行います。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	2	2	年に1度研修を行っています。	2019年度は年に2度行う予定です。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	2	2	切迫性、非代謝性、一時的の原則を理解し、生命の危機や、身体の安全を確保の為にやむを得ず必要な場合であることを明確にしています。また、計画への記載については、2019年2月以降分より記載をしています。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	2	アレルギー対応の児童はおりません。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		周知し、書類については回覧しています。	